

運動部活動と学力の関係について

飯田 彩香（生涯スポーツ学科 学校スポーツコース）

指導教員 柴田 俊和

キーワード：運動部活動 学力 中学生

1. 緒言

現在の子どもたちは、運動不足であると同時に学力低下しているとも言われている。私自身が部活動に所属している時は先生に、「学校のメインは勉強することであり、部活動ではない。しっかり勉強しなければ、部活動の練習に参加させない。」と言われてきた。しかし、部活動にばかり力が入ってしまうあまり、学業に身が入らないということは私自身も経験したことである。「運動できる子は勉強ができない。」という声を聞いたことがある。しかし実際のところはどうか。部活動に所属している生徒は、部活動に所属していない生徒よりも学力が低いのだろうか。本研究は、部活動参加率や学力調査の結果や中学生の実態から、上述の疑問を明らかにしたいと考えた。

2. 研究方法

本研究は各都道府県学力調査結果と部活動参加率に関する文献資料の検討及び兵庫県の中学生（1～3年生）を対象としたアンケート調査結果を基に考察を進めた。

運動部活動に所属している生徒と所属していない生徒における部活動や学力に関する意識の差を明らかにしようとした。調査の結果を単純集計し、円グラフを用いて各項目の割合を示して、考察の資料とした。文献資料と調査結果の考察を総合的にして検討を進める。

3. 結果と考察

「勉強は得意か」や「自分の学力は高いと思うか」という質問には、運動部活動に所属して

いてもいなくても、数値的にはあまり大きな差が見られなかった。しかし、「部活動と学力の関係はあると思いますか？それはなぜですか？」という質問に対する回答では、運動部に所属する1・2年生と3年生での考えには違いがみられた。

1・2年生では、部活に参加していることで、学力にマイナスの影響があるという考えがあった。しかし、3年生では反対に、学力にプラスの影響があるという意見がでてきた。部活動に所属している間は、学校生活+練習といった活動の忙しさの中において、忙しい日々を送っているという感覚が強いようである。しかし部活動を引退した3年生は、引退したことで部活動で送ってきた生活を客観的に振り返ることが可能になり、部活動で得たことの重要性を感じていることが調査結果にも示されていた。

4. まとめ

都道府県別に検討した全国学力調査の結果と運動部活動加入率に関するデータでも、中学生に行ったアンケート調査結果でも、運動部活動に積極的に取り組む生徒には、勉強にも積極的に取り組む姿勢が見られることが分かった。

参考文献

橘木俊詔（2010）：日本の教育格差 岩波書店
文部科学省（2010）：全国学力調査の結果、及び質問項目/都道府県別統計で見る学力調査
日本中学体育連盟ホームページ：全国の運動部活動参加率のデータ